

通 告 質 問 一 覧 表

(平成26年6月定例市議会)

順 位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
1	1 1	2 番 石 部 誠	<p>1 大飯原発の運転差し止め判決をどのように捉えるか</p> <p>(1) 市長は原発差し止め判決をどのように受け止めたか</p> <p>(2) 高梁市は原発から 100 キロ圏内に入っている。市民の安全・安心のため、原発ゼロに力を尽くすべきではないか</p> <p>2 図書館について</p> <p>(1) 計画されているのは中央図書館なのか。また中央図書館としての機能をどのように考えているのか</p> <p>(2) 図書館を含めた複合施設を民間委託とする新聞報道もあるが、市の考え方と進捗状況はどのようになっているか</p> <p>(3) にぎわいを含めた駅前の機能と本来の中央図書館の機能が離反せず、市民に使いやすい施設になるのかどうか</p> <p>3 幼・保一体化について</p> <p>(1) 一体化へ向けて事業全体の進捗状況と各園の取り組み状況はどうか</p> <p>(2) 子どもの保育、教育、家庭、施設、給食、職員において、現行の保育所、幼稚園の基準やサービスが下回ることはないのか</p> <p>(3) 乳幼児保育の安全・安心と防災計画、給食の自園調理、病後児の受け入れ、一時預かり保育の一層の拡充を求める</p> <p>4 高齢者、障害者支援のため、家庭ごみの戸別収集を始めるべきではないか</p> <p>(1) ごみ出し困難者の実態を把握されているのか</p> <p>(2) 御近所や収集業者の援助だけでは済まされない状況があるが、環境面や住民福祉の立場から今後どのように考え拡充させようとしているのか</p> <p>(3) 介護保険の要介護度に応じて実施してはどうか</p>
2	1 3	19 番 難 波 英 夫	<p>1 本市農業の展望について</p> <p>(1) 政府が家族農業を締め出して企業経営、大規模経営が担う農業を進めている。本市の対応を問う</p> <p>① 米の直接支払交付金が半額にされ4年後には廃止される。半額を市で補填してはどうか</p> <p>② 飼料用米の販売先は確保されているか。また、標準単収より150キログラム増産が必要だが、可能と考えているのか</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
2	13	19番 難波英夫	<p>③ 日本型直接支払制度が創設されたが、本市で多面的機能支払交付金が交付される条件が整うのか</p> <p>④ 中間管理機構を通じて農外企業や一握りの担い手に農地を集めたら、農村地域は維持できなくなると思うが、対策はあるのか</p> <p>⑤ 中山間地域等直接支払交付金の増額と継続を国に要請すること</p> <p>(2) 交渉ごとに守るべきものが守れなくなっていく T P P 交渉からの撤退を国に強く要請すること</p> <p>2 教育委員会制度と教育内容について</p> <p>(1) 政府は教育委員会制度を変えるための地方教育行政法改正案を国会に提出している。この法案は教育委員会の独立性を奪うことが懸念されるが、市長はどのように受けとめているのか</p> <p>(2) 教育への政治支配を許さないためにも、地方教育行政法改正を行わないよう国へ要請すること</p> <p>(3) 本市の教育においては、異常な競争主義の持ち込みで点数が全てという教育を行わないこと</p> <p>3 集団的自衛権行使容認について</p> <p>(1) 憲法 9 条を守り、若者を海外の戦場に送らないために、集団的自衛権行使容認を行わないよう国へ要請すること</p>
3	7	6番 内田大治	<p>1 町内会組織の維持運営について</p> <p>(1) 町内会は行政推進のためには重要な組織である。現状の町内会数、世帯数、人口、そして小規模高齢化集落（限界集落）の数値について問う</p> <p>(2) 町内会組織としての運営が困難な状況となっている現状がある。市はどのように認識しているのか</p> <p>(3) 後継者不足により人口は減少し、高齢化している。また、町内会を維持するための資金もない現状である。行政として町内会の合併、資金面での支援等対策に取り組むべきではないか</p> <p>2 公共施設の維持管理について</p> <p>(1) 市所有施設の整理については、行財政改革大綱実施計画に基づいて実施されているが、進捗状況はどうか</p> <p>(2) 本年度、公共施設の維持管理に必要な予算はいくらか</p> <p>(3) 他市では公共施設維持管理のために基金を設けている。本市も取り組む必要はないのか</p> <p>(4) 公共施設の維持管理を担当する部署を設置してはどうか</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
4	1	4 番 黒 川 康 司	<p>1 各地域局について</p> <p>(1) 本年は、市政発足 10 周年の節目の年であるが、10 年が経過し、高梁市においても過疎化、高齢化、少子化といった厳しい状況になってきている。このような状況の中、各地域局は旧町の役場を活用しているが、今後もこのままの状態を維持していくのか問う</p> <p>(2) 旧高梁市においては、各地域ごとに市民センターを設置し地域住民への対応を行っているが、今後、各旧町への配置を考えているのか問う</p> <p>2 火災発生時の市民への周知について</p> <p>(1) 異常気象、地震、火災などの情報については、現在、メールにより情報提供されているが、火災発生時については、メール以外にどのような方法で市民の方へ周知しているのか問う</p> <p>(2) 成羽町においては、以前は火災発生時には地域局からサイレンにより市民の方へ周知されていた。しかし、システムが古く更新するには多額の費用がかかるため、この 4 月からは遠隔操作をやめ消防団員が手動でサイレンを鳴らすとのことである。この方法は高梁市全域で採用されているのか。また、今後この方法で統一していくのか問う</p> <p>3 定住対策について</p> <p>(1) 定住対策の観点から、産科が高梁市になくなっている状況は非常に重要な課題だと思うが、市としての考え方を問う</p> <p>4 地域公共交通について</p> <p>(1) 市民の方の移動手段の確保については、デマンドタクシーなどに取り組み、成果も上がってきていると思う。現在は生活福祉バス、外出支援事業、福地と玉川のデマンドタクシーなどがあるが、市民への公平なサービスを考えたとき、今後どのような計画で進めていくのか問う</p> <p>(2) 備中高梁駅への特急やくもの停車とバスとの乗り継ぎについて、周辺地域からの利用者の便益を考えているのか問う</p> <p>5 市の普通財産について</p> <p>(1) 市の普通財産のうち使用されなくなった施設については、どのように処分していくのか問う</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
5	4	12 番 倉 野 嗣 雄	<p>1 地域振興交付金について</p> <p>(1) 地域振興交付金は合併後 10 年間とされていたが、交付金を減額し 20 年間交付すると聞いている。その後は交付金の交付をどのように考えておられるのか</p> <p>2 歴史的な民具や史料の保存について</p> <p>(1) 本市では歴史的な民具や史料が各地域にある。しかし、倉庫などに保管され、一般の人の目に触れる機会が少ない。以前にも質問をし、場所を決定して集中管理するように考えている。1、2 年のうちに決めると答弁されている。現状と計画はどのようになっているのか</p> <p>3 行財政改革について</p> <p>(1) 本市では市長が行財政改革推進本部長となり取り組んでおり、職員数の削減は計画以上の成果であると聞いている。施設については A から E までの順位をつけて行うと聞いているが、現在はどのくらい進んでいるのか。また、今後の見通しはどのようになっているのか</p> <p>4 高梁市総合計画の見直しについて</p> <p>(1) 本年は平成 27 年度からの後期基本計画が策定されようとしている。合併から約 10 年が経過して、地域によって投資的部分の格差が出ていると考えられる。今後の計画において是正が必要と思うが、どのように考えておられるのか</p>
6	1 2	8 番 森 田 仲 一	<p>1 有害鳥獣対策について</p> <p>(1) 平成 25 年 12 月議会において、国の制度による有害鳥獣の緊急捕獲活動を実施すると答弁をいただいているが、対策協議会の設置及び実施隊の設置に向けた現在の取り組み状況を問う</p> <p>2 木質及び竹材エネルギーの有効活用について</p> <p>(1) 平成 25 年 6 月議会において、木質エネルギーの活用策として、「公募による里山整備」並びに「里山整備促進事業」において発生する木材のエネルギー活用を提案し前向きな答弁をいただいているが、現在の状況を問う</p> <p>(2) 事業内容を山林所有者へ PR すること。また、事業で発生した木材の受け入れ場所、作業機械の貸し出しについての検討状況を問う</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
6	12	8 番 森 田 仲 一	(3) 竹林の整備について、平成 25 年度で竹林調査及び希望者を募り伐採及びパウダー化、チップ化し活用することを実施されたが、今後の施策としてどのように進めていくのか検討状況を問う
7	10	1 番 石 井 聡 美	<p>1 空き家対策について</p> <p>(1) 高梁市の空き家対策について現状と実績を問う</p> <p>(2) 「地域ぐるみの空き家活用モデル事業」、「住みたいまち高梁」創造ネットワークなどの活動について、現状を問う</p> <p>(3) 空き家を貸さない理由の 1 つに、家の中に残っている家財道具の移動場所がないことが上げられる。遺品の整理に専門業者を頼む場合に費用を補助するべきではないか。</p> <p>(4) 地域や個人に対して、空き家解消を目的に報奨金を出している自治体もふえている。高梁市でも導入してはどうか</p> <p>2 観光振興について</p> <p>(1) 備中松山城への来場者がふえているが、市内の他の観光施設は入場者が減っており相乗効果が十分に発揮できていない。その原因や現状に対する認識を問う</p> <p>(2) 観光戦略アクションプランの進捗と現状を問う</p> <p>(3) 交流人口 100 万人は、移住や地域振興につなげるためのマイルストーンだと認識している。観光を軸にした商業振興として、景観ゾーンに出店した場合には補助金を増額している自治体もある。高梁市でも観光に関連した業種の誘致や、観光地への出店を積極的に行うべきではないか</p> <p>(4) 観光庁の調査では、外国人観光客が旅行中最も困ったこととして「公衆無線 LAN 環境」の不備が上げられていた。高梁市では文化交流館のみで「おかやまモバイル SPOT」が利用できるが、市役所や駅、ホテルのロビーなど公共性の高い場所にも環境を整えるべきではないか</p> <p>3 アニメーションを使った地域振興について</p> <p>(1) 制作が計画されているアニメーション「天地無用」を高梁市の地域振興にどのように活用していくかを問う</p> <p>(2) アニメーションを産業として活用するには、人材育成のための教育が欠かせない。現在のアニメーションには、3DCG が多用されており高度なプログラムの知識や、3D アニメーションソフト専用ツールの勉強が要求される。現在は世界中でエンジニアが不足しており、プログラムを必修授業に組み込む試みも見られるようになってきた。これ</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
7	10	1 番 石 井 聡 美	<p>から世の中に出ていく人たちには、就職のため専門的な技能が求められるようになる。高梁市でもプログラムや、ツールを使ったCG作成を学校教育の中に取り入れてみてはどうか</p> <p>4 情報リテラシーの向上について</p> <p>(1) 総務省による平成 24 年度の調査で、岡山県のインターネット利用率は 80%と全国平均の 79.5%よりも多い。高梁市の利用状況を問う</p> <p>(2) ICTの活用は、総合計画にも上げられている項目だが、そのためには住民の情報リテラシーの向上が欠かせない。現状の取り組みを問う</p>
8	6	10 番 長 江 和 幸	<p>1 教育行政について</p> <p>(1) 伊原木岡山県知事が掲げているかつての教育県岡山の復活、教育再生をめざす施策の 1 つである頑張る学校応援事業が教育現場に一石を投じている。県教育委員会から趣旨説明がされていると思うが、取り組みに向けての本市の考えを問う</p> <p>(2) 入学式、卒業式への教育委員会の出席者及び来賓はどのように決めているのか</p> <p>(3) 市立松山高校生徒の不祥事件の謝罪会見に教育委員会も同席するべきだと思うが考えを問う</p> <p>2 市営住宅について</p> <p>(1) 高梁市営住宅入居者選考審議会について</p> <p>① 審議会の公益代表者 7 名の委員構成を問う</p> <p>② 入居希望者が多数の場合入居者の適否を審議するとなっているが、書類審査は通過しているのにどのような審議をされるのか</p> <p>③ 公平性を保つために抽選で入居者を決定するべきと思うが考えを問う</p> <p>(2) 入居募集を停止している市営住宅を撤去してはと思うが考えを問う</p> <p>3 ごみ等収集施設設置費補助金について</p> <p>(1) 交付要綱では補助金の交付を受けた日から 5 年を経過するまでは再び補助金の交付申請はできないこととなっているが、施設の老朽化へ対応するため、5 年を経過しなくても限度額内であれば対象となるよう要綱を見直すべきと思うが考えを問う</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
9	9	5 番 三 村 靖 行	<p>1 少子化対策の子ども・子育て支援新制度について</p> <p>(1) 子ども・子育て支援新制度が平成 27 年 4 月からスタートすると決定したが、高梁市が進める「認定子ども園」とどのような関係があるのか。また、これまでと何がどう変わるのか</p> <p>(2) 今年から試行している有漢、川上以外の「認定子ども園」はどうなるのか</p> <p>(3) 保育料はどうなるのか</p> <p>2 観光行政の推進について</p> <p>(1) 段町の国道 180 号沿いにある緑地帯の払い下げについて以前に質問しているが、その後どのように研究されたのか</p> <p>3 少子化対策の推進について</p> <p>(1) 中山間地域の本市では、ほとんどの地域で少子化が進んでいる。このままだと地域が消滅するところが出てくるのではないか。格安の住宅団地を整備して若者の定住につながることはできないか</p>
10	3	16 番 川 上 博 司	<p>1 自転車通学の安全対策について</p> <p>(1) 落合町阿部地内の国道 313 号の通学路について</p> <p>2 公共施設の行財政改革の取り組みについて</p> <p>(1) 指定管理者制度のモニタリング調査を実施すべきではないか</p> <p>(2) 公共施設マネジメント白書を作成すべきではないか</p>
11	5	15 番 宮 田 公 人	<p>1 市政運営における公共施設の老朽化対策と人口減少問題について</p> <p>(1) 日本創成会議・人口減少問題検討分科会が、「ストップ少子化・地方元気戦略」の中で人口減少社会の実情について提言し、社会の関心を集めている。総合計画の後期基本計画策定年度にあつて、人口減少をどのように捉え将来計画に反映させていくのか</p> <p>(2) 総務省から、公共施設等総合管理計画の策定が求められているが、本市ではどのような方法で現状を把握し、対策を講じていくのか</p> <p>2 子ども・子育て支援施策について</p> <p>(1) 子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた子ども・子育て会議と内部検討委員会での議論状況の説明を求める</p> <p>(2) 高梁保育園の入所園児数は定員をオーバーしているが、周辺の幼稚園施設を有効活用した保育実施はできないか</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
1 1	5	15 番 宮 田 公 人	<p>(3) 川上幼稚園と川上保育園では施設が独立しており、認定子ども園に移行した場合、一体的な保育が難しい状況となる。こうした施設構造の問題について、どのような対応策を講ずるのか</p> <p>(4) 教育施設の再配置という観点から、高梁幼稚園、高梁南幼稚園、高梁保育園の施設統合に向けた基本計画を早急に策定すべきではないか</p> <p>3 幼稚園給食の実施状況と今後の展開について</p> <p>(1) 幼稚園給食の現在の実施状況について説明を求める</p> <p>(2) 小学校に隣接しない幼稚園には保管庫がないが、衛生管理をどのように行うのか</p> <p>(3) 落合幼稚園は小高い場所に立地しており、2階建て構造でもある。また、搬入路も狭くプラットホームの確保も難しい。施設の改造が必要となるが、どのように実施していくのか</p> <p>4 図書館建設と複合施設について</p> <p>(1) 3月議会以降の教育委員会内部の議論経過について、説明を求める</p> <p>(2) 「高梁中央図書館建設基本計画」策定時からの経緯を振り返ってみると、最近では民営化についての言及もあり、その内容は大きく変質している。市民への説明責任、合意形成という観点から、審議会を再設置し現在の計画をベースとした見直し作業が必要ではないか</p>
1 2	8	9 番 大 森 一 生	<p>1 高梁市の持続的可能性と定住化施策、産業・農業振興について</p> <p>(1) 先般の「日本創成会議」公表の推計について、どのように捉えているのか</p> <p>(2) 将来に向けての定住化施策を中心に、地域の資源を活かした自立促進のための総合的施策について</p> <p>① 「消滅自治体」、「極点社会」、「大地震」が現実味を帯びてきている。その中でコンパクトシティとダイバーシティ（多文化共生）の中長期的な戦略と包括的施策の構築が叫ばれているが、本市の持続的発展の方向性、戦略を聞く</p> <p>② 本市の持続性のあるまちづくりに前例にとらわれない大胆、かつ型破りな戦略が必要ではないか</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
12	8	9番 大 森 一 生	<p>2 学園文化都市づくりと2018年問題の本市における影響について</p> <p>(1) 学園文化都市づくりの状況について聞く</p> <p>(2) 18歳人口が減少し始める2018年問題が本市に及ぼす影響をどのように認識しているのか。また、それに対する対策はどのようになっているのか</p> <p>(3) 次代の担い手を想定、視野に入れたまちづくり戦略に、大学を巻き込んでいく必要性が増大している。戦略、方向性の思い切った転換、見直しが必要ではないのか</p> <p>3 高梁市の産業構造分析の必要性について</p> <p>(1) 本市の持続的発展、可能性について考えるには、本市の現実を客観視することから始まる。それには産業構造分析が必要である。従来慣習、前例にとらわれない手法、手段を公共経営に取り入れるべきではないか</p>
13	2	7番 宮 田 好 夫	<p>1 市政懇談会について</p> <p>(1) 高梁市総合計画の後期基本計画が検討される中、7月には旧市内の各地域市民センターで市政懇談会が開催される予定となっているが、その内容について問う</p> <p>① 懇談会に出席する執行部の体制はどうなっているのか</p> <p>② 懇談会の位置づけと内容はどのようなものなのか</p> <p>③ 出された意見や要望はどのように扱うのか</p> <p>2 国民健康保険の広域化について</p> <p>(1) 市町村単位で事業が行われている国民健康保険について国で広域化が検討されているが、本市の対応について問う</p> <p>① 国が広域化を進めている目的は何か</p> <p>② どのようなスケジュールで広域化を進めるのか</p> <p>③ 広域化に向けて、岡山県の対応状況は把握されているのか</p> <p>④ 市町村にとってどのような利点があるのか</p> <p>⑤ 国保加入者についてのメリット、デメリットは何か</p> <p>3 短期人間ドッグについて</p> <p>(1) 毎年国民健康保険加入者を対象に短期人間ドッグの募集が行われているが、今年度も募集開始から終了までが短期間であった。課題と改善策について問う</p> <p>① 過去3年間の状況はどうだったのか</p> <p>② 希望者数と募集人員とがミスマッチではないか</p> <p>③ 来年以降の募集について、どのように改善するのか</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
13	2	7番 宮田好夫	<p>4 産業廃棄物最終処分場について</p> <p>(1) 2009年7月から許認可権を持つ岡山県と、計画した事業者である岡山北エバグリーン株式会社との間で行われてきた事前協議が本年5月12日に終了し、これからは本申請の手続きになると思うが、このことについて市はどのように受け止めているのか</p> <p>(2) 地域の自然を守り、水を守ることは高梁川流域に暮らす多くの住民の暮らしを守ることであり、これまで以上に行政と地域住民が一体となって取り組むべき問題と考えるが、市はどのような考えで取り組みを進めるのか</p>